

茅ヶ崎市のシェアサイクル推進に係る基本的な考え方

平成28年3月

茅ヶ崎市



目 次

1	趣旨	pp.2-3.
2	位置づけ	pp.4-5.
3	本市の「シェアサイクル」の定義	p.6
4	これまでの経過	pp.7-9.
	(1) 過去の社会実験	pp.7-8.
	(2) 第2次ちがさき自転車プラン推進連絡協議会の意見	p.8
	(3) 有識者の意見	p.9
	(4) 近年の本市の自転車を取り巻く環境の変化	p.9
5	現状の課題	p.10-11.
	(1) 情報が分散している	p.10
	(2) 茅ヶ崎駅南口に大きなポートを用意できない	p.10
	(3) 本格運用ができない体制・事業性を確保できていない	p.11
	(4) 需要喚起ができていない	p.11
6	シェアサイクルの取り組みの方向性と姿勢	p.12
7	シェアサイクル推進に係る基本的な考え方	pp.13-15.
	(1) 取り組みの全体像	p.13
	(2) 関係者との連絡推進体制	pp.14-15.
	(3) 検討・推進するその他の施策	p.15
8	試行による検証	p.16

別紙 シェアサイクル試行実施計画

1 趣旨

本市では、平成16年に「ちがさき自転車プラン」（以下、「前プラン」という。）を策定し、「自転車のまち茅ヶ崎」の実現に向けて、市民の皆様や事業者、行政等と協働しながら、数々の取り組みを展開してきました。そのひとつが、レンタサイクルやコミュニティサイクル（本稿では、これらの総称として「シェアサイクル」として取り扱っています。）の取り組みです。これまで、関係団体や国土交通省のご協力を得ながら、いくつかの社会実験を行い、シェアサイクルの仕組みの検証を行ってまいりました。

そのような状況のなか、平成27年3月にはさがみ縦貫自動車道が開通、平成30年3月には「（仮称）柳島スポーツ公園」、平成31年7月には「道の駅」が開業予定であること、そして「茅ヶ崎海岸グランドプラン」や「国道134号沿線の活性化に関する基本方針」等において、交通手段として自転車が注目されていることなど、二次交通としての自転車や、地域振興・観光手段としての自転車活用への期待がこれまで以上に高まっています。また、現在、茅ヶ崎市商店会連合会などにおいてレンタサイクルが展開されていますが、その一方で、（仮称）柳島スポーツ公園においてサイクリステーションを設置する計画があるなど、各々の関係者が個別で取り組んでいる状況であり、こうした関係者間の連携をさらに強めることで、相乗効果を得られると思われま

そして、本市では、前プランで主に推進してきた「自転車を安全に、快適に使える環境を整える」ことだけでなく、「自転車を楽しむ仕組みをつくる」「自転車で暮らしとまちを変える」ことが、「自転車のまち茅ヶ崎」の未来にむけた新たなステップであり、その鍵がシェアサイクルにあると考えます。自転車を活用して、より質の高い暮らしを実現することを目指して、平成26年4月に「第2次ちがさき自転車プラン」を策定し、プランにおけるまちづくりの方向性のひとつに「暮らしを楽しむ仕組みづくり」を位置付け、重要な施策としてシェアサイクルの導入・推進を掲げました。

本市のまちづくりのこれからを考える上で、交通手段の確保は無くてはならない要素であり、シェアサイクルを推進することは、本市の地域特性やこれまでの取り組み

の経験からも自明のことと言えます。これまでの経過を十分踏まえながら本市の今後を見据えたときに、今後の動向を占う岐路にあると考えられる今、時宜を捉えてシェアサイクルについての考え方を明らかにしておく必要があると判断しました。

また、茅ヶ崎市観光振興ビジョン「茅ヶ崎、動く」に掲載される「観光資源に関する調査報告」（平成26年5月）では、本市に来たことはないが「訪れてみたい」と思う方が13.7%（湘南では、19%）となっています。一方で、意向のない人の44%は「きっかけがない」と答えています。が、きっかけは創り出せるものであるため、本市に訪れてもらえるように仕向ける大きなチャンスであると認識しています。

本市のシンボルである海をはじめとする観光スポット、多くの文化人の保養地として発展してきた歴史などから生まれたゆったりした風土、そこで暮らす人々や様々なライフスタイルから生まれるまちの空気・雰囲気などの本市の魅力的な資源を肌で感じてもらうために自転車を活用することは、新たな来街のきっかけをつくる仕掛けのひとつとして、有効であると考えます。

また、シェアサイクルを含め、自転車の利用を促進することによって、回遊性の向上と地域の活性化を図ります。

これまで以上に関係者が力をあわせて、自転車を軸に魅力的な資源・事業等をつなぎあわせることで相乗効果を図り、効率的かつ効果的に事業を推進するため、「茅ヶ崎市のシェアサイクル推進に係る基本的な考え方」を定めます。

2 位置づけ

平成26年4月策定の「第2次ちがさき自転車プラン」の中では、まちづくりの方向性のひとつに「暮らしを楽しむ仕組みづくり」を位置付けており、その取り組みの一つとして「自転車をシェアするシステムの検討・実施」を掲げています。

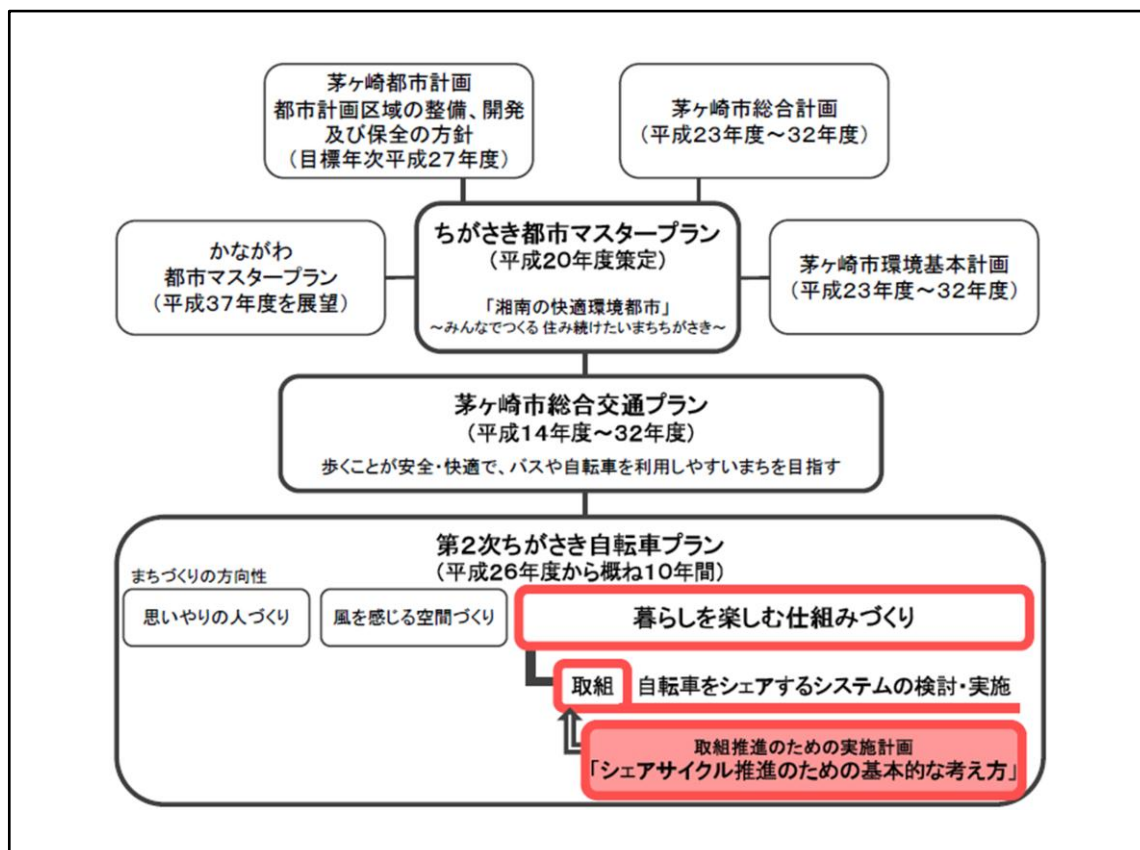


図1 位置づけ

表1 「自転車をシェアするシステムの検討・実施」の推進に関するスケジュール

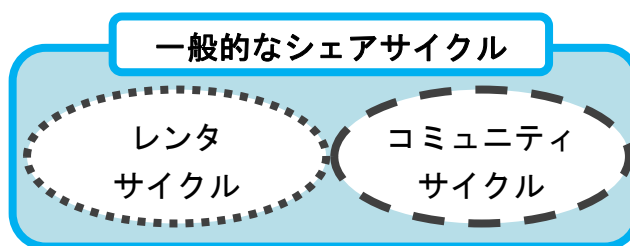
主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
レンタサイクルシステムの促進	既存のレンタサイクルシステムの利用促進	利用促進策の検討・実施		
	自転車の一括貸し出しによる「茅ヶ崎方式レンタサイクル」の事業化の検討	事業化に向けた検討		
	新たなレンタサイクルシステムの検討及び社会実験の実施	システムの検討	新システムの導入等	
	広域コミュニティサイクルの導入に向けた検討	導入に向けた検討		

※「第2次ちがさき自転車プラン」より引用

同プランの「自転車をシェアするシステムの検討・実施」に関するスケジュールの中では、「新たなレンタサイクルシステムの検討及び社会実験の実施」について、短期の取り組みとして、27年度までに「システムの検討」をすることとしております。そして、プランの計画期間である平成35年度までに、「新システムの導入等」を図ることとしており、今後は、「茅ヶ崎市のシェアサイクル推進に係る基本的な考え方」に基づいて、事業を推進していきます。

3 本市の「シェアサイクル」の定義

一般的に「シェアサイクル」とは、「レンタサイクル」と「コミュニティサイクル」の総称であり、「1台の自転車を複数人でシェアする」ことを意味します。

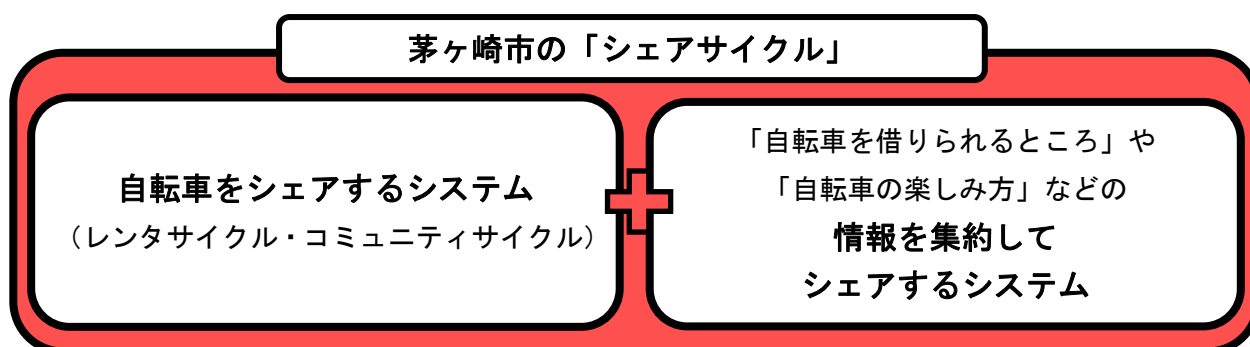


しかしながら、本市においては、「1台の自転車を複数人でシェアするシステム」であることはもちろん、加えて「情報を集約してシェアするシステム」を備えている状態を「シェアサイクル」として定義します。

それは、「自転車をシェアするシステム」が単独で機能するのではなく、併せて市民・来街者に「情報を集約してシェアするシステム」で情報を提供して、自転車でまちを回遊してもらうことにより、本市の点在している各個店、サービス、施設等をつなぎ合わせて、その魅力を最大限引き出すことができる、そこにシェアサイクル推進の意義があると考えます。

さらに、多くの来街者が茅ヶ崎市を訪れることで、まち全体の「見られる意識」が高まり、来街者はもとより、市民にとってもよりよいまちになる、そのような状態を目指します。

また、導入に当たっては、本市の自転車利用割合が県内で最も高いことと、自転車保有率が1世帯あたり2.38台であること¹を考慮しながら、市民にとっても使いやすいシステムとなるよう十分に配慮します。



¹ 出典：茅ヶ崎市（平成26年）「第2次ちがさき自転車プラン」

4 これまでの経過

(1) 過去の社会実験

本市では、平成16年度より、レンタサイクル社会実験やコミュニティサイクル社会実験、パークアンドサイクル社会実験、ちがさき方式レンタサイクル社会実験を実施し、本市にとって最も望ましい自転車を共有する仕組みをつくるための研究を行ってまいりました。その結果、様々な課題が浮き彫りになるとともに、一定の需要があることを確認しました。

社会実験結果の概要は、表2のとおりです。

表2 過去の社会実験の概要

	レンタサイクル社会実験	パーク＆サイクル社会実験	コミュニティサイクル社会実験
期間	平成16年11月～平成17年9月	平成21年8月	①平成21年12～平成22年2月 ②平成22年12～平成23年2月
実験目的	● 放置自転車・不法投棄自転車対策 ● 市民の足として買い物などに利用してもらう ● 環境負荷低減	● 市中心部への自動車乗り入れ減少による渋滞緩和	● まちの回遊性を高め、商業と観光の活性化をめざす ● コミュニティサイクルシステムの検証
対象	市民	駐車場利用者	—
実験概要	【方 式】 レンタサイクル 【ポート】 市内小売店など23箇所（商店会連合会のレンタに相乗するかたち）（最終的には20箇所）（「別紙1」参照） 【車 両】 リサイクル自転車54台 【料 金】 1回100円	【方 式】 レンタサイクル 【ポート】 東海岸南自動車駐車場 【車 両】 リサイクル自転車10台 【料 金】 無料	【方 式】 コミュニティサイクル ① 平成21年度 【ポート】 市内小売店、市営自転車駐車場等9箇所 【車 両】 シティサイクル48台、3人乗り自転車3台 【料 金】 1回300円 ② 平成22年度 【ポート】 茅ヶ崎駅周辺小売店など8箇所（「別紙1」参照） 【車 両】 シティサイクル30台、3人乗り自転車3台 【料 金】 1回300円

※ちがさき方式レンタサイクル（企業への一括貸付）は、今回検討を行っているシェアサイクルとは性質が異なるため、ここでは引用していません。

これらの社会実験では、次のことが明らかになっています。

- 【利 用 者】・平日は業務に利用される方が多く、
土日は観光や買物目的の来街者の利用が多い
- ・20～30代の利用が多い
 - ・ほとんどが市外居住者の利用
 - ・夏季の利用者数は、冬季の4倍
- 【ポ ー ト】・茅ヶ崎駅南口から近く、視認性の高いポートの利用が圧倒的に多い
- ・駅から近くても、わかりにくいポートは利用が少ない
 - ・駅から少し離れていても、目的地への動線上は利用されやすい
- 【移 動 先】・茅ヶ崎駅から海方面への利用が多い
- ・観光目的での近隣市（江の島など）へのアクセスも見られる
- 【乗り捨て】・レンタサイクル型の利用が多く、乗り捨ては少なかった
- 【満 足 度】・非常に高く、利用意向が高かった

（２）第２次ちがさき自転車プラン推進連絡協議会の意見

第２次ちがさき自転車プラン推進連絡協議会より示された、シェアサイクルの運用に係る主な意見は、次のとおりです。

- 自転車を、暮らしを楽しむためのツールとする
- 茅ヶ崎の資源を活用して特別な時間を提供する
- 来街者の回遊性を高めて、地域経済の活性化を図る
- シェアサイクル事業を中心に関係者が連携し、まち全体で相乗効果を図る

また、関係者のこれまでの経験を最大限活かしながら、将来にわたってシェアサイクル事業を継続的に行いたいこと、情報を一元化する必要性があること、女性目線の事業展開を図ることの重要性などについても示されました。

（３）有識者の意見

シェアサイクル専門部会での研究過程において、協議会の副会長の株式会社三井住友トラスト基礎研究所の古倉宗治研究理事とサイクルライフナビゲーターの絹代氏からいただいた主な意見は次のとおりです。

- 茅ヶ崎のニーズにあったスタイルを探求することが必要
- 来訪のモチベーションを高めるために「絶対に楽しめる」という確信が得られるようなコンテンツを用意して、情報発信を行うこと
- テーマ性・季節感のある自転車回遊コースを設定すること
- 自転車の走行環境の整備やルール啓発、わかりやすい表示や案内の整備等をあわせて進めていく必要があること 等

（４）近年の本市の自転車を取り巻く環境の変化

本市の自転車を取り巻く環境は、大きな転換期を迎えようとしています。平成２７年３月にはさがみ縦貫自動車道が開通、平成３０年３月には「（仮称）柳島スポーツ公園」、平成３１年７月には「道の駅」が開業予定であること、そして「茅ヶ崎海岸グランドプラン」や「国道１３４号沿線の活性化に関する基本方針」等において、交通手段として自転車が注目されていることなど、二次交通としての自転車や、地域振興・観光手段としての自転車活用の期待が高まっています。

5 現状の課題

過去の社会実験結果や、協議会・有識者の意見、そして近年の環境変化から、次の4つの課題が想定されます。シェアサイクル事業を展開するうえで、これらの課題への対応が求められます。

（１）情報が分散している

（仮称）柳島スポーツ公園のサイクルステーションや道の駅などにおいて、新たなレンタサイクル事業者の発現可能性が高まっており、それらを含む市内のレンタサイクルを一括してわかりやすく案内するサービスが必要となりますが、現状そのような仕組みはありません。複数のレンタサイクル事業者が、各々自らの情報を発信するのではなく、一体的に見せて発信することは、PR 効果を高めるとともに、利用者の利便性も高めます。さらには、利用者がそれらの情報を事前に手に入れることができれば、来訪のモチベーションが高まります。

また、現在、市・観光案内所に、市内のレンタサイクルの有無や、既存事業者のレンタサイクルなどの問い合わせがありますが、わかりやすくご案内できず利用者に不便をかけていると当事者レベルで感じており、「茅ヶ崎を自転車で回りたい」というニーズにスムーズに応えられていません。そのような状況を改善するため、利用者にとってわかりやすい案内・情報提供が必要です。

（２）茅ヶ崎駅南口に大きなポートを用意できない

茅ヶ崎駅周辺ではまとまった用地を確保することが難しく、特に、レンタサイクルの需要が高い南口周辺においては、活用できるスペースがほとんどありません。また、駅南口から最も近い市営の自転車駐車場は定期利用者の需要が非常に高いことから、他市のように自転車駐車場を活用したレンタサイクルの実施は困難です。

しかし、過去の社会実験結果からは、できるだけ駅に近いポートが求められていることがわかっています。そのような期待に応えながら、かつ安定的に供給できるようなくみを整えることが必要です。本市では、大規模ポートの設置を検討しつつも、駅周辺においては、当面、複数の小規模ポートの設置・運営を促進しながら、連携して供給できるしくみを整える必要があります。

（３）本格運用ができない体制・事業性を確保できていない

過去の社会実験は、期間が定まっていたことから、ある程度は関係者のボランティアで成り立つことができました。また、社会実験では、「どの方法が良いのか」を模索する段階であったため、事業性の確保を検討する段階ではありませんでした。

しかし今回は、本格運用を見据えた取り組みであり、事業性に重きを置かなければ、将来にわたって継続できることが難しくなってしまいます。よって、持続可能な体制を整え、事業性を確保できるしくみを目指していくことが必要となります。

（４）需要喚起ができていない

過去の社会実験では、夏季は冬季の需要のおよそ４倍となることが明らかになっています。冬季は需要が伸び悩む中、積極的な需要喚起ができていません。ゆえに、業務利用等で利用されることがほとんどです。事業性を確保する観点からも、冬の茅ヶ崎の魅力を自転車で伝え、需要を掘り起こす工夫が必要です。

6 シェアサイクルの取り組みの方向性と姿勢

過去の社会実験で明らかになったことや、関係者、有識者の意見を参考に、5つの取り組みの方向性・姿勢を導き出しました。



(1) 取り組みの全体像

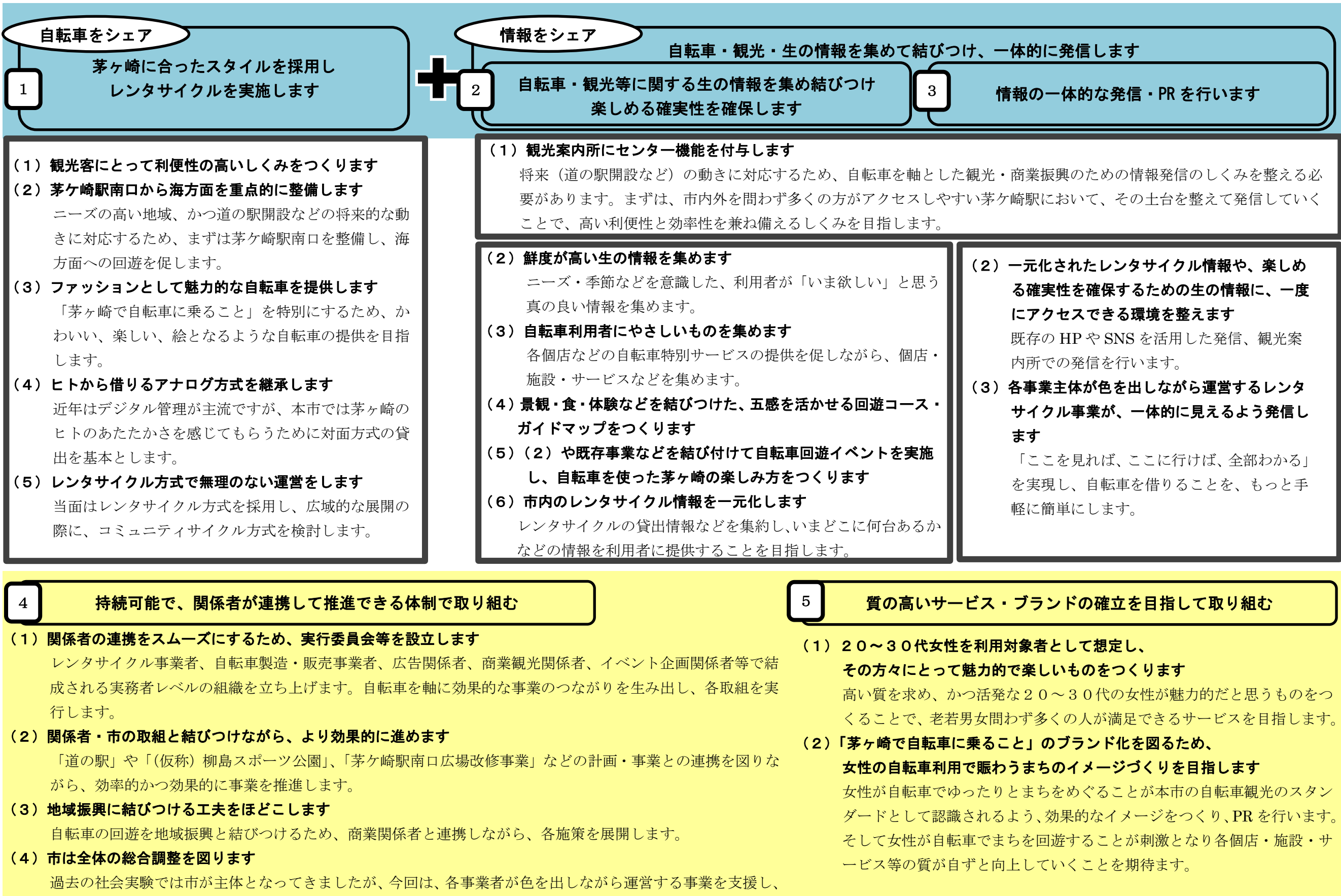
目的

人と魅力ある茅ヶ崎の資源を自転車でつなぎ、特別な時間を提供する × 20～30代女性の自転車利用促進によるまちの魅力アップ

取り組みの
方向性

取り組みの
内容

取り組む
うえでの
姿勢



（２）関係者との連携推進体制

「取り組むうえでの姿勢 ４ 持続可能で、関係者が連携して推進できる体制で取り組む」の推進イメージはこのようなかたちです。

関係者等が、本市のシェアサイクルのめざすところを共有し、同じ方向性を見据え連携しながら、効率的かつ効果的に本市のシェアサイクルを推進していきます。

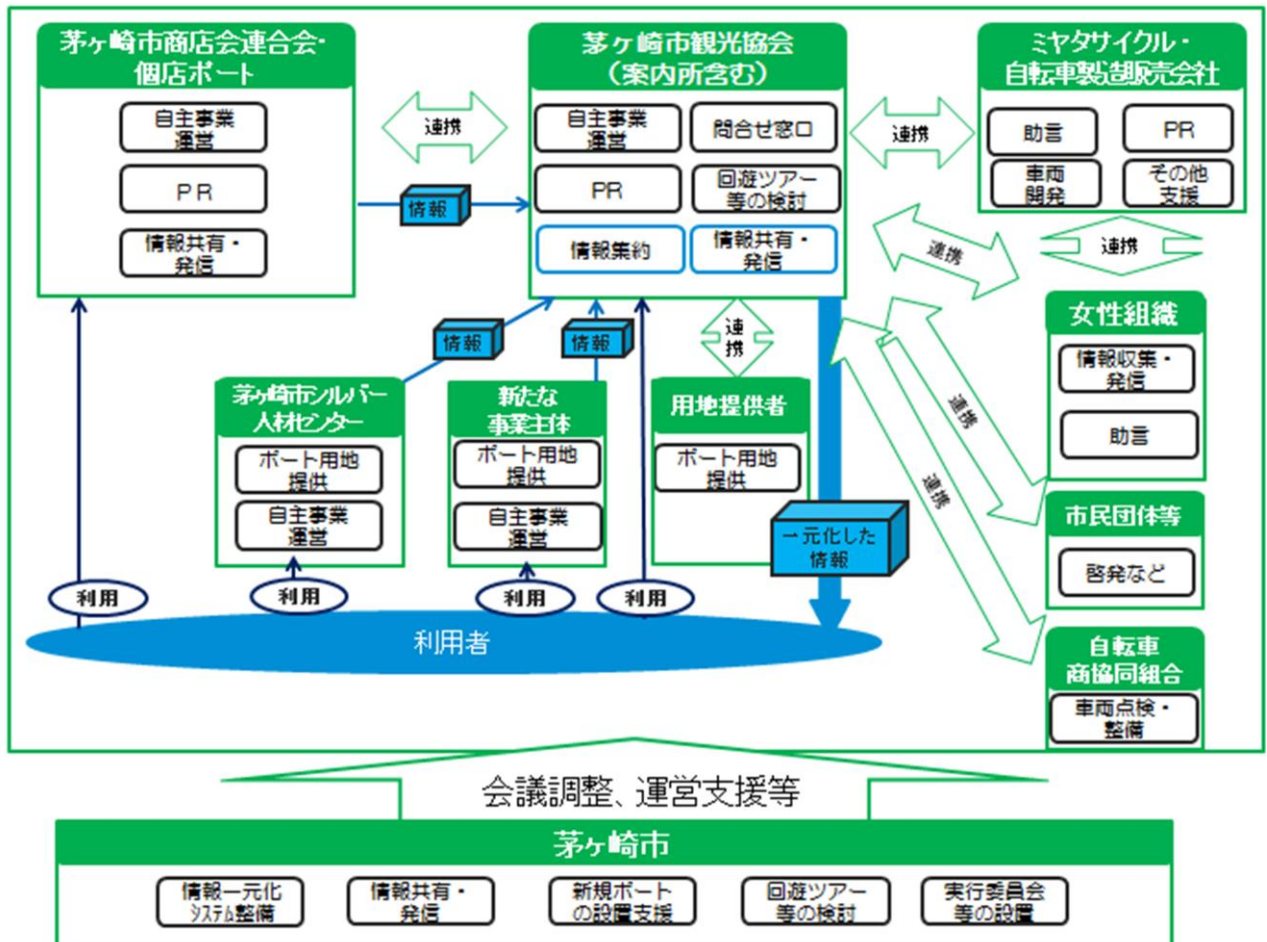


図２ 推進のイメージ

各事業者が特色を出しながら独自で運営する取り組みをつなぎ合わせ、市が全体の総合調整を図ることによって、継続可能な体制を整えていきます。そこで、各関係者のノウハウを活かしながら効率的に運営し相乗効果を生み出せるよう、次の２つの体制を整えます。

① 実行委員会等の設立

レンタサイクル事業者、自転車関係者、広告 PR 関係者、商業観光関係者、イベント企画関係者等を中心とする実務者レベルの組織を立ち上げます。

また、市の「道の駅」や「(仮称) 柳島スポーツ公園」などの計画・事業との連携を図りながら、効率的かつ効果的に事業を推進します。ここでは、各事業者の情報交換を行うとともに、一体的な PR、各施策の協働実施を目指します。

② 20～30代の女性目線で自転車によって魅力が増す・アクセスしやすくなる「楽しいこと」「良いもの」「魅力的なこと」などを抽出し、発信する組織の設立

質の高さを求め、かつ活発な20～30代の女性を核となる利用対象者として想定しており、その方々が魅力的に思えるもの、関心のある生の情報を、女性が女性のために抽出して伝える体制をつくります。女性が満足できるものは、幅広い世代のニーズを満たすと考えます。

利用者ニーズに沿った魅力的な情報を提供することによって、女性の関心を惹きつけ、地域振興につなげます。

(3) 検討・推進するその他の施策

「(1) シェアサイクル推進の目的と取り組み方針」に挙げているものを優先的に取り組んでいきますが、次の取り組みについても並行して検討・推進していきます。

- 自転車の不具合・故障時の対応方法のパッケージ化
- 「自転車のまち茅ヶ崎」のブランドマークの導入
- 法定外路面標示やナビラインなどの誘導表示の整備
- レンタサイクルの事前予約システムの導入

8 試行による検証

（１）目的

今回、シェアサイクル推進のために、実行委員会等の実務者レベルの組織を立ち上げ、各々の事業につながりをもたせながら、一体的な PR 等を図ります。また、観光案内所がセンター機能を担い、情報の集約・発信を行うことも初めての試みです。これまでは社会実験として展開してきましたが、今回は、本格運用を見据えた取り組みであり、この体制が持続可能なものであるのか、検証する必要があります。次の３つの目的のもと、試行を実施します。

- ① 観光案内所のセンター機能の有効性・持続可能性の検証
- ② 利用者ニーズの把握、主に観光目的の来街者を対象とした場合の課題抽出
- ③ その他、既存事業者との連携方法・情報共有方法の検討材料とする

（２）検証内容

- ① センター機能の有効性・持続可能性を検証

観光案内所では、情報集約・発信を行いながら、別紙のとおりレンタサイクルを実施します。継続事業として確立できるか、収支状況や利用者アンケートをもとに判断します。事業改善を図りながら、持続可能な状態を導き出します。

- ② 利用者ニーズの把握、主に観光目的の来街者を対象とした場合の課題抽出

観光案内所で自転車を貸し出して利用者に対してアンケートを行い、利用者ニーズの把握・運営面やサービスの課題等の抽出を行い、事業の改善を図ります。

（３）実施体制

（仮称）シェアサイクル実行委員会で実施し、市はその一員として参画するとともに、試行用ポートの確保と（２）の検証の協働実施の役割を担います。

（４）期間

試行の検証期間は平成２７年度末から平成２９年１月３１日までとし、その後は本格運用（事業者の自主事業として運営すること）を開始します。

シェアサイクル試行実施計画

平成29年1月31日までの期間において、次のとおり試行を実施します。
そして、平成29年2月1日から本格運用（各事業主体が自主事業としてレンタサイクルを実施すること）を開始する予定です。

（１）概要

- I 主 体：一般社団法人茅ヶ崎市観光協会、茅ヶ崎市
- II 協 力：神奈川県自転車商協同組合茅ヶ崎・寒川支部、株式会社ミヤタサイクル、公益社団法人茅ヶ崎市シルバー人材センター、茅ヶ崎市商店会連合会、湘南ステーションビル株式会社
- III 貸出場所：観光案内所で手続きのうえ、湘南ステーションビル株式会社ラスカ茅ヶ崎店事業用地内（南側自転車駐車場付近）にて貸し出し
- IV 利用時間：4月～9月：9時から18時まで
10月～3月：10時から18時まで
- V 貸出車両：シティサイクル5台
- VI 利用料金：1日1回500円
その他、デポジット料金1000円（※）が必要
- VII そ の 他：
 - i 貸し出しの手続きには、携帯電話の番号、身分証明書（自動車運転証又は保険証）ご提示が必要
 - ii 大人用自転車のため、年齢、身長等によっては利用できない場合あり
 - iii 「茅ヶ崎市商店会連合会レンタサイクル」の貸出店舗についても、観光案内所にて案内可能
 - iv アンケート調査の実施

※ 原則、利用者に返金します。ただし、自転車の一部を破損させてしまった場合、または利用時間を過ぎても返却されない場合等は、返金しません。

(2) 実施スケジュール

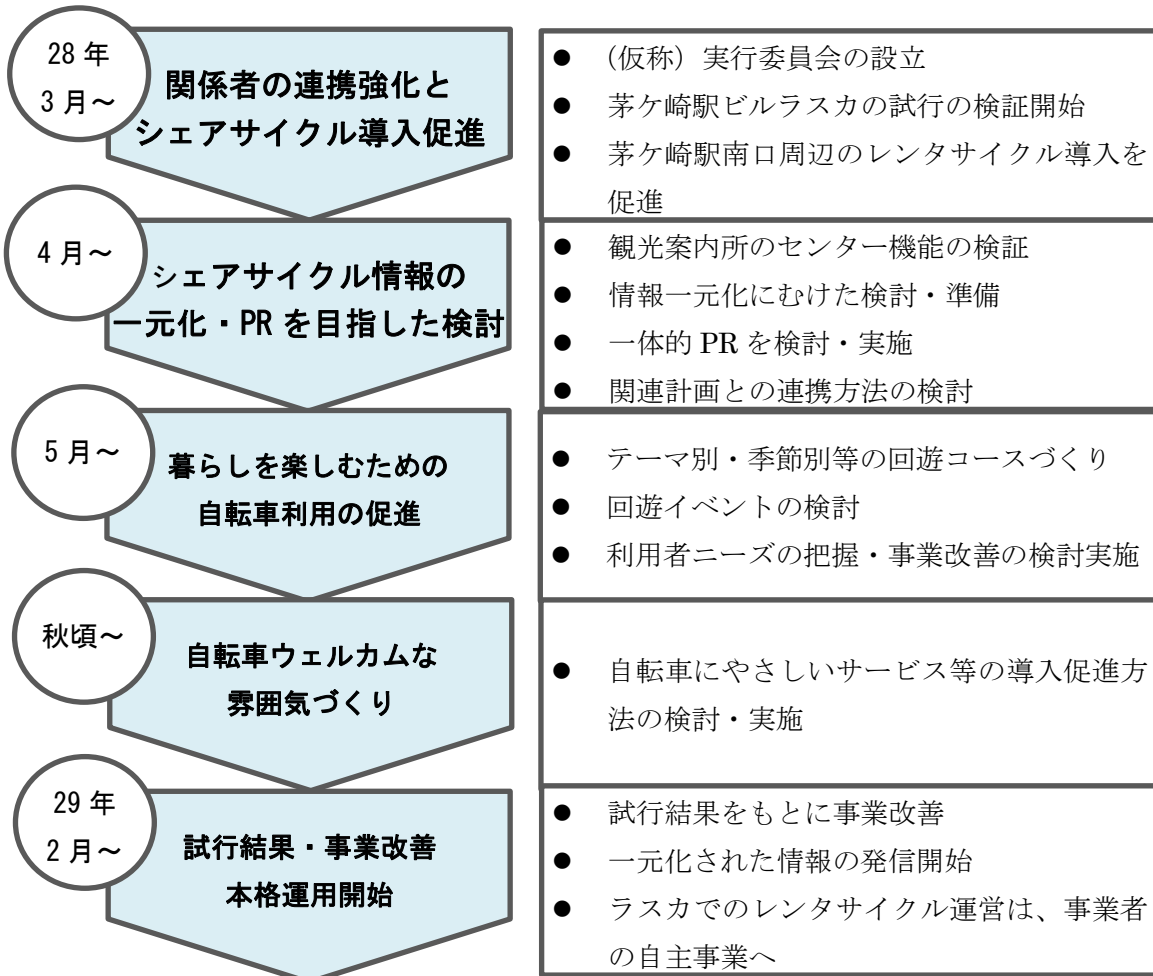


図 使用する車両